

第4回 三朝町保育施設のあり方検討会 会議録

1. 日 時 令和元年7月23日（火）午後7時～午後8時20分
2. 場 所 三朝町役場 第4会議室
3. 出席者 【委 員】 布広覚会長、大丸倫裕副会長、松原万里子、平井研、小椋史紀、
向井由里子、藤井博美、高見昌利
【 町 】 町民課：山中町民課長、井上主査
【欠 席】 米田功、田中千鶴

(敬称：略)

4. 内 容

I 開会

II 会長挨拶

【会長】 挨拶

【事務局】 出席委員過半数以上により会が成立することを報告

【事務局】 まずはじめに、これまでいろいろとご意見をいただいているところですが、政策を決定するのにあたり町が方針案を示して「どうですか。」というのが昔は一般的でしたが、参加型、協働型の社会になって原案作りから広く（委員の方に）参加していただき、できあがった案をパブリックコメントで求めるというのが今の政策決定の手法となっております。町としても、今回のあり方検討会にしても（方針を）何も考えていないわけではありませんが、行政側の都合だけで（方針を）決めるのではなく、皆さんで話をして法の縛りによってできること、できないこともありますし、適当でないこともあります。納得性を高め合うことが大切だと思いますので、こういう会を開かせていただいております。この検討会の委員の皆さまは、地域の代表、民生児童委員の代表、子ども・子育て委員の代表、保護者の代表、園の代表と三朝町のために活動していただいている方ばかりでございます。三朝町は人口が少なく、行政だけではどうにもならないことが多くあります。そのたびに地域の皆さんや保護者の皆さん、民生委員の皆さん、その他企業の方など大勢の方と一緒に多くのことを成し遂げてきました。小さい町ならではの良さだと思っております。本当に皆さんには感謝しております。今後も子育て施策等についても色々な面からも検討していただいているところでございますが、皆さんの力で最善の方法を導いていただけると信じております。

III 議事

(1) 方針案の方向性の確認

【会長】 議事に入りたいと思いますが「方針案の方向性の確認」とあり、今日はこれがまともればいいのではと私は考えておるところです。お手元の資料にあります但しこれまで第1回

では、保育施設の現在の状況といったあたりのことを話しました。第2回では、町内の3施設を視察しました。第3回では、いろんな方法があるのではないだろうかというケースについて、事務局からたたき台を示していただき、いろんなご意見をいただいたところかなと感じております。今日につきましては、前回の会議を踏まえたうえである程度どの方向性がいのかというところまで詰めればいいのではと考えております。皆さんの忌憚のない意見をいただき、それをまとめる会にしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、今日の資料の中に「保育の質」というのがついておりますので事務局から説明をお願いします。

【事務局】 方針案の方向性の確認ということを今日議論するということでしたが、委員の方の中から（これまで議論の中に出ていた）「保育の質って何ですか。」ということと「三朝町における保育の方向性について説明していただければ。」という話がありましたので事前に資料を配布させていただきましたので、担当の方から説明させます。

（資料 「保育の質とは」により事務局説明）

【会長】 前回までの会議で「保育の質」という言葉が出てきまして、委員からもう少し詳しくということでの説明でした。何か質問等があれば。

【委員】 先ほど事務局より行政が決めるのではなく、パブリックコメントでどうかおっしゃられたがこの会の目的が見えてこないです。何を議論すればいいのかをずっと考えています。「行政が決めるのではなく」というのは確かにあるのかもしれませんが、「一体行政は何を考えているのだろうか。」というところが見えていないです。「皆様のご意見を」といわれるが何のご意見を求めるのでしょうか。「行政はこう考えるが、民間の手法で考えるとどうなのだろう。」と尋ねてこられて、それを議論するというのならわかりますが、行政の本音がない中、何を議論するのでしょうか。就学前の子どもの保育、教育というのは行政がやろうと民間がやろうと、例えば賀茂保育園を指定管理に出してやっておられますが、こども園は直営でやっておりますが保育の質の差ってどういうものがあるのでしょうか。これは行政がやるメリットがないのであれば、（行政は）やめた方がいいだろうと思いますし。民間で十分だろうと思いますし。もうひとつは、みささこども園はどういう運営形態であろうと問題ないと思いますが、問題は竹田保育園だと思います。小学校の統合であれば話が分かりやすく、教育の質と経費の問題があるので、それぞれが少人数で行政が運営していくと誰が見ても「統合すべき」と考えるのですが、統合準備委員会というのがあって、「それを議論してください。」という話で分かりやすいのですが、今回は何を議論すればいいのが見えにくいと思います。「みささこども園を指定管理者に出したい。」ということであればそれはそれで結構だと思います。「竹田保育園はどうしますか。」といったときに直営となればそこで矛盾が起きることになります。つまり、少ない人数で運営しているところに多額の経費をかけて直営でやる。採算性が合わないところを直営でやるというのは問題があるのではないかと感じます。保育施設のあり方というのは「竹田保育園をどうするのか。」というのが手っ取り早いと思うのですが、それをオブラートに包んだような形で話が進んできているよ

うなのでこの会で何を話せばいいのかわかりません。行政の考えがないのに、私たちが保育施設をどうするのかという議論は難しいです。行政の本音を聞きたいです。

【会長】 私の認識としては、町としては「裕福な財政ではないので。」というのが前提にあるのだと思います。職員の現在の状況など現況を考えたときに、「これからの三朝町の保育施設というのはどうあるべきか。」というのを私としては、単純に考えて理解しているところです。町長の考え方がどうであれ、私たちとしての方向性を出せばいいのではないのかなという認識でしかないのですが。

【委員】 「忖度してください。」って話なのではないでしょうか。(町の)「ニュアンスを感じ取って私たちにそれを言ってください。」ということなのですね。「資金はありませんよ。保育士の確保は難しいのですよ。」というところを言うておいて「あとはおわかりでしょう。」って。例えば、「人口の問題から今の形態は将来的に息づまるので、その時に備えてどうあるべきか考えてほしい」と言われれば、それでいいのですが。

【事務局】 第1回の会議では、現状と課題について説明させていただきました。その話の中で委員の皆さんから施設のあり方について話が出て、町として事務局としてどういったことが考えられるのかということで方針案を示させていただきました。その中で、町の方から言わなくても皆さんの方で意見交換をしていただきました。その中で委員さんから「案2と案3のどちらかになるのではないか。」という意見を出していただき、町としても全く考えていないわけではありません。実際に委員さんには町としては「現状のままは難しいです。」と言わせていただきました。「そのために、この会をさせていただきました。」というところで、はっきりとは方針を示してはおりませんが、全く出していないというわけではなく、「そういったことも考えてください。」という言い方をしたつもりなのですが、それが曖昧にというように受け取られてしまったのですが、結果、案2（竹田保育園をみささこども園又は賀茂保育園と統合、みささこども園は現状のまま）と案3（みささこども園に指定管理者制度の導入、竹田保育園は現状のまま「引き続き、竹田保育園の今後のあり方の検討を行う）の中からという形で皆さんも認識を持っておられると思っておりますし、そこから先について町としてはどうかと言われたときに皆さんの意見を聞きながら決めたいというのが町の方針です。だから皆さんの意見を聞かせてくださいというところですが、逃げているわけでも、全く町の方針を伝えていないわけでもないのですが、それがうまく伝わっていないというところに関しては説明の仕方が悪かったかなと思っております。その他の案については、特に皆さんからの意見は出なかったもので、案2か案3の中で方向性を決めていただけたらと思っておりますが・・・。

【委員】 最初からそういつてもらえばよかった。

【委員】 この方向性という部分は、(今回の)あり方検討会の以前に平成18年にあり方検討会があって、その方向性が既に出ている。その方向性をベースに賀茂保育園を公設民営という方向に踏み切ったという過程があるわけですね。本来は、その時は三朝保育園と東保育園と竹田保育園の3園が残って三朝保育園の老朽化問題と併せて今のこども園という形

で三朝保育園と東保育園が統合した形になったわけですね。その当初の答申案に基づいて公設民営という形が議論されたかどうかはわかりませんが、公設公営で今の2園が存在している中で、少子化問題と経済的な問題が並行する中で今回のあり方検討会が立ち上がったのだらうと思うのですが、方向としては多分皆さんが見えているのだと思うのです。少子化で町の人口が半減するという状況の中で、小規模な竹田保育園のあり方がまず、最初に考えられる部分。少数の園をどうするのという。みささこども園は方向性としては、時間の問題ではなく、方向性としては公設民営というものの考え方をどの時点で移行させていくのかなという方向性ではないかなと思います。そのときに、「保育の質を向上する。」というのがビジョンや計画の中には出て来ているわけです。「保育の質の向上というのは何」というのが今回、私が話を振ったテーマです。保育の質というのは施設だけの話でもないし、規模の話でもないし、いろんな全体的な環境を整えていくのかという問題であるとしたときに、いきなり「小さい保育園だから廃止します。」というのが本当に良いのかなと思います。その部分も大きい流れの中で、標的は皆さんがおぼろげに見えているとはいいいながら、もう少しその辺りを検討して、その上に立って方向を見定めるべきではないかなと思います。いずれ時間の問題で、小学校の統合と同じで子どもが10人くらいの規模でやるのがいいのかどうか、集団生活というものの捉え方がかわってくるのかなと、小学校の場合は1学年1人とかというようなことをみてみると、教育環境としては良くないというようなことで統合という流れの中に落ち着いたと。その辺をどうまとめていくかというのが大きいところかなと感じています。

【会長】 前回の会議でもかなり議論したような気がいたしておりますが、あの時はだいたい9割方くらい方向性が出ていたのかなという気がしていて、今日はそれを詰めていくというような流れを考えておりました。確かに今、委員が言われたように小学校は統合したが、子どもが10人くらいいる園についてはどうするか。この辺りの部分について皆さんの意見を聞きながら取りまとめをしていくことが大切だと思っています。みささこども園については、賀茂保育園のように公設民営という方向かなという感じがいたしております。竹田保育園についてはどのくらいの標記にとどめるのかということかなとっております。今にも（竹田を）統合というのはどうかという気もいたしているところです。

【委員】 竹田保育園の保護者からしましたら、案2であるとかの（デメリットに明記されている）「保育園がなくなることにより地域の活力が失われる懸念がある」というところが問題かなとっております。小学校がなくなることだけでも結構な活力がなくなったと感じております。せっかく地域協議会の会長をはじめとして、地域の方々がいろいろと活動してくださっているのに。「地域で支える子ども」と書いてありますがどのあたりが「地域」を指しているのだらうと。私の感覚でいえば住んでいるあたり。校区内が地域ではないかと思っています。それが竹田（保育園）がなくなり、この町全体が地域といわれれば、それはちょっと違うというような感じを持ってしまいます。通園のことも考えないといけないと思います。竹田保育園も入所者10名で、9家庭のうち竹田の方は6家庭くらいですが、それでも6家庭竹田から通っているということもあるので、そこは大切にしていきたいということが率直な意見です。

【事務局】 竹田保育園については、この人数というのはこの何年も推移しております。また、地域で子どもたちはとても大切にされているのかなと思っております。

【委員】 実際に竹田保育園も見学させていただいて、いろいろな現状を見て地域に育てられ、見守られている保育園だなということを思いますけれども、本当に今老朽化している。あとのくらいその建物が手を入れていってもつのか。三朝保育園と東保育園が統合するときもそれぞれ、そういった懸念があったと思います。委員の中に東保育園と三朝保育園の関係の方がいらっしゃらないのでその時の思いを聞くということが残念ですが、残したいけれども経費のことでいうのであれば、これから先、子どもが減っていくということを考えたときに、みささこどもが指定管理で公設民営で運営するというのは、今聞いていると仕方ないのかなと感じます。最初から委員に選ばれたときから悩んでこういう会議に出させていただいて、このまま決まっていくことで責任が大きいと思って会に参加させていただいていました。悩みがつきなくて、どういった形がいいのだろうかということで日々考えも変わり、皆さんで方針を決めるというのが本当に難しいなという感じです。何をとるかでいけば、全て園を残したほうが良いに決まっていますし。

【委員】 東保育園と三朝保育園が一緒にしたときに、当然地域の中によって大きな反対もあったわけですね。あえて統合したというのは、保育の質の問題ではなくて、財政的な部分で考えて、維持できないという部分があるだろうと。竹田保育園も同じことが言えるのだと思います。地元の方からすれば、小学校にしても保育園にしてもなくしてもらったら困るのです。最終的には、財政事情しかないだろうと。私たちが考えても統合というのはいずれの場合でも望ましくないのです。地域が小学校や保育園を残したいというのは、当然の思いだと思います。もうひとつは、竹田保育園が指定管理に出せれるのかどうなのかですね。

【事務局】 距離のことや、規模のこと、建物のことを考えると竹田保育園を指定管理者に出すことは難しいと思います。

【委員】 それは最初に教えてほしい。議論するときに竹田保育園は、指定管理者は無理ですよ。そうすると園を残すのか、統合するかの二者択一しかない。最終的には財政事情ということではないのでしょうか。竹田保育園は指定管理に出せない前提で考えると、直営か統合になる。直営にすると経費がかかりすぎますよね。その採算性を考えるとどうなるか。統合しかないのではないのでしょうか。

【委員】 経費がかかりすぎるということにも裏があって、保育に係る運営経費というのは落とせないと思うのですね。（経費が）落とせない部分がどこかに振り分けられるだけであって、トータルとしてはひとつの大きな園を民営化すると、その中で経費が落とされる可能性も出てくるわけで、トータルの経費そのものが増えるというものではなくて上限が抑えられるというものの考え方でないといけないのではないかと思います。もうひとつは、「地域で子どもを育てる」といったことがみささスタイルの実現目標というような話で書きこんでいるのです。この中身というのは、（統合してしまつて）地域から子どもを離しておいてほんとうにそれでいいのかなと。別の会の話にはなるが、拠点を町の中央に集めておいて、各

地域はその連絡をとる手段という形にしかなり得てない。拠点を本来は地域ごとに小さいながらもあった。これを全部寄せて一つにしてしまった。拠点を地域から離れたことによる弊害というのは多分いろんなところ出てきていると思う。今回の統合で、一か所にしていきましようというものの考え方は最終的にはそこに落ちるような気がします。これは避けて通れない問題だとは思いますが、そこらへんが書いてあることとやっていることに矛盾感があるのです。

【委員】 小学校の統合は「教育」という部分があるのでやむを得ないという気はしますが、保育の場合はそこまで求められていないだろうと。では、竹田保育園を残す方策はどうあるべきかという議論や知恵を出し合うという議論は有意義になるのかもしれない。通園のことなど考えても小学校の統合問題と保育園の統合問題というのは違うのかなと思います。

【会長】 皆さんの意見というのがそういった感じではないかと思います。竹田保育園を今すぐ統合であるとか、そういったことにはならないのではというのが、皆さんのご意見なのかなという感じがしております。

【委員】 竹田保育園をみささこども園と統合するというのは現実的ではないでしょう。そうなれば賀茂保育園となるのでしょうか、定員としてなかなかかな（難しい）と。竹田保育園を残すということができれば、もう少し議論の余地ができてくると思いますが。

【事務局】 皆さんの意見を聞いていますと、案3のことを言っておられるのかなと（感じます）。みささこども園は指定管理者制度の導入、竹田保育園は現状のまま。ただ、今後引き続き竹田保育園のあり方の検討を行っていくというように受け取りましたが。

【委員】 みささこども園は直営でも構わないのですよ。指定管理に出さなくても。だけれども行政として考えたときに、財政面や人事面であるとか保育士の問題があるということで検討した結果、指定管理の導入が良いという話であれば、それは誰が保育をやってもいいし、現実的に賀茂保育園が指定管理を出してうまくいっているのであれば、それでいいというだけの話で「指定管理に出す」と言うことをいっているわけではありません。

【会長】 いろんなことを総合的に考えてみますと、今言われたことがこの会のまとめなのかなという気がします。みささこども園については、財政的な負担軽減の面も考えていくところの委員会では賀茂保育園のような施設の運営ありきではないかなという感じがするのですが。練ったうえでの方向性ということで。問題は先ほどから出ておりますが竹田保育園のあり方についてどう表現するのかということだと思います。

【委員】 竹田保育園を見たときに、それほど老朽化というのをあまり感じませんでした。当初の問題では老朽化のことが書いてありましたが。あとは、竹田保育園を維持していくことができるのかと。ただ、リミットみたいなものは考えていないといけないだろうと。今、児童が10人ということだが、それが5名になったときとか。いつまでも（このまま）ということではなく。最低、運営するためにはこれだけの人数ということはあると思うのでそこも

含めて検討されたいのではないかと思います。

【委員】 単純に考えたとき、地域の子どもの数は年々少なくなっていく。これは統計上仕方のない話で、今定員20名で、この20名を目標にどれだけ他の地区から魅力を感じて預けて来る人がどれだけあるかというのが園の評価だと思います。そのためには、これまでのように受け身の体制からもう少し子どもを引っ張ってくるという取り組みを、アピールしながら。そうすれば別に今、統合という話にはならない気がします。

【事務局】 ちなみに、竹田保育園は平成25年に8人だったのが現在まで10人前後の入所者が続いております。昭和54年に建てられた建物についても、老朽化した建物とはいつてはおりますが、施設的には直しやすい施設で、子どもの安全面を確保して整えてはおりますので、皆さんも視察していただきましたがそこまで古くないという印象を持たれていると思います。

【委員】 前回の会議で、他の園で子どもを受け入れることができない場合に、竹田保育園で受入れをしているというようなことができるというようなことでしたよね。

【委員】 第1子を出産されるときはいいのですが、第2子以降を出産される際というので里帰りという場合は上の子どもを預けられるのですが、そういったときに困られるので短期間ですがそういった子どもをお預かりするということがあります。それといま、奥部に住まれることを検討しておられる方がありまして、園に入所の問い合わせがあり、見学に来られるということもあります。

【会長】 今、竹田地域以外からはどれくらいの入所がありますか。

【委員】 3家庭、4名です。

【委員】 保育というのはNPOであったり、民間であったりの方が保育としたら面白い取り組みができるのかもしれないですね。どうしても町が直営ですと弾力性がないのかもしれないという気がします。できれば、もう少し竹田保育園に絞って話ができればいいと思っているのですが。皆さんがそのテーマをもって集まっていたいただければと面白いと思うのですが。

【会長】 委員から竹田保育園についてもう少し意見交換、議論する場があった方が良いという提案がありましたが、皆さんにご異議がなければ、次の会は竹田保育園に絞っての意見交換会を設定するというのでいいでしょうか。

(委員異議なし)

【会長】 委員の皆さんから特に異議なしということで、今回はそのように設定したいと思います。

【委員】 人口減少の推移は明記されているのですが、子どもの今後の将来的にどれくらいになるかといった資料があると（議論しやすい）。

【事務局】 出生数については、急激に減りつつあり、年間40名であったのが、昨年で31名、今年の見込では20数人くらいかなというところかなということで大幅に子どもの数が減少しているということも含めて出せる資料を準備させていただきます。

【委員】 将来的には賀茂保育園もみさきこども園も竹田保育園を描いていないといけないと思います。小規模になったときにどう生き残れるかというのはこれからの課題だと思います。経営的な問題と保育の問題の両面から。

【会長】 次の会議で検討するにあたりその他必要な資料などありますか。特になし。

【会長】 次の会議は8月21日（水）午後7時にしたいと思います。

（2）その他

特になし

【会長】 以上をもちまして、この辺りで終了させていただきたいと思います。1カ月ほどありますのでじっくり考えていただいて良い方向に導きたいと思います。皆さん今日は本当にありがとうございました。

閉会 20：20

以上